

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を歴史として位置づけること、歴史として共有し、未来に伝えることを目指しています。そのために震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を明らかにすることがまず必要ではないかと考え、「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として震災が産み出したモノやバシヨに着目し、これらを「震災遺産」と呼んで調査・保全に取り組んでいます。

福島県における本震災には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージとこれらに対応した救助・避難・支援・除染などの多様な局面があり、それぞれが地域差を持ちながらも広域に複合し、回復しがたい日常や暮らし・非日常の光景とともにある暮らしが今も産み出されています。

今回は本プロジェクトのアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅢ」明治大学セッションとして、多様な局面を示す震災遺産の展示に加え、ギャラリートーク・デジタルアーカイブ体験・シンポジウムを開催し、震災遺産とその保全のあり方から、震災のカタチが地域を越え共有される機会にしたいと考えています。

震災遺産展

「我^が暦 → ガ^れキ → 我^き歴」

日々の暮らしの中で当たり前存在したものがカタチや意味を変えたもの、震災前は想定できなかった非日常の光景等からなる震災遺産を展示し、それらが語る「ふくしまの経験」に耳を傾ける。

と **1/8 (日) - 2/5 (日)**
き 10:00 - 17:00 (入場 16:30 まで)
会期中無休・入場無料

と 明治大学博物館 特別展示室

主な展示品

- ・震災の時刻で止まった時計
- ・被災したパトカーの部品
- ・配達されなかった新聞包み
- ・被災地名を示す道路標識
- ・避難所で使われたロウソク
- ・スクリーニング済証
- ・避難所「特設学級」作品 など (約 50 件)

ギャラリートーク

会期中の土・日曜日・**1/9 (祝)**
10:30 - 11:00 / 13:30 - 14:00
※1/22 (日) は午前のみ実施

「MR」

3D デジタル震災遺構 アーカイブ 体験展示

3D ポイントクラウドデータとして保存した福島県に所在する多様な「震災遺産」を、最新技術MRによる3次元バーチャル映像で体験し、震災遺構が持つ意味やバシヨの記憶を考える機会とする。

と **1/21 (土) ~ 会期中の土・日曜日**
き 11:00 - 12:30 / 14:00 - 15:30
定員各回 20 名 [体験約 5 分・無料]
※各回の開始 30 分前から整理券配付

と 明治大学博物館 特別展示室

コンテンツ

- ・浪江町請戸漁協建屋
- ・浪江町苅野小学校避難所
- ・双葉町マリンハウスふたば
- ・富岡町災害対策本部
- ・富岡町JR富岡駅
- ・いわき市立豊間中学校 など



ナビゲーター 鹿納晴尚 氏
(東北大学総合学術博物館技術支援員)

*MR- 複合現実 (Mixed Reality):
仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術

シンポジウム

「ふくしまの経験を語る・伝える」

震災の体験・出来事を伝えるには何が今必要なのか? 語り・アーカイブ・震災遺産等それぞれの立場で「ふくしまの経験」の継承に取り組む方を迎え、活動や実践の意味や課題について検討する。

と **1/22 (日)**
き 13:00 - 16:30 (開場 12:30)
申込不要・定員 195 名・参加無料

と 明治大学
グローバルフロント 1F 多目的室

基調講演「大学が避難所になるとき
—福島大学の 48 日間—
鈴木典夫 氏 (福島大学行政社会学類教授)

報告1「伝えたい。
—富岡町 3・11 を語る—
青木淑子 氏 (富岡町 3・11 を語る会代表)

報告2「震災アーカイブ活動から
見えるもの」
川副早央里 氏 (早稲田大学文化構想学部助手)

報告3「震災遺産を保全する」
高橋満 (ふくしま震災遺産保全プロジェクト
実行委員会事務局 GM)

パネルディスカッション
「ふくしまの経験を伝えるために」
司会 赤坂憲雄
(ふくしま震災遺産保全プロジェクト
実行委員会委員長・福島県立博物館長)

※都合により内容について変更する場合があります。

内容に関するお問い合わせ
福島県立博物館
0242-28-6000

実行委員会構成団体
双葉町歴史民俗資料館 相馬中村層群研究会 南相馬市博物館
いわき市石炭・化石館 富岡町歴史民俗資料館 いわき自然史研究会
(公財) ふくしま海洋科学館 福島県立博物館

明治大学博物館



〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
アカデミーコモン地階
TEL : 03-3296-4448 FAX : 03-3296-4365

